

名古屋まつり協賛

日本古武道大会

日時・場所

令和元年10月20日（日）

熱田神宮神楽殿前広場 10:40～11:40

熱田神宮文化殿講堂 10:30～16:10

(駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。)

主催 日本古武道振興会

目 次

I 挨 拶

| | | |
|---------------------|--------|---|
| 名古屋まつり協進会 会長 | 河村たかし | 1 |
| 日本古武道振興会 会長 | 小笠原清忠 | 2 |
| 日本古武道振興会 副会長 愛知県支部長 | 柳生耕一巖信 | 3 |

II プログラム・演武者名簿（演武順）

<熱田神宮神楽殿前広場> 10:40~11:40

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式 | 4 |
|--------------------------|---|

<熱田神宮文化殿講堂> 10:30~16:10

| | |
|-------------------|---|
| 1. 柳生制剛流抜刀 | 5 |
| 2. 合 気 道 | 5 |
| 3 天神真楊流柔術 | 5 |
| 4. 示現流兵法剣術 | 5 |
| 5. 鞍馬流剣術 | 5 |
| 6. 天道流なぎなた | 5 |
| 7. 天真正伝香取神道流 | 6 |
| 8. 鹿島新當流剣術 | 6 |
| 9. 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法 | 6 |
| 10. 神道夢想流杖術及併伝武術 | 6 |
| 11. 無雙神傳英信流抜刀兵法 | 6 |
| 12. 立 身 流 | 6 |
| 13. 滝川一流柔術 | 7 |
| 14. 琉球古武術 | 7 |
| 15. 柳生心眼流體術 | 7 |
| 16. 宝蔵院流高田派槍術 | 7 |
| 17. 神道夢想流杖道 | 7 |
| 18. 神道無念流剣術 | 7 |
| 19. 関口流抜刀術 | 8 |
| 20. 心形刀流剣術 | 8 |
| 21. 新陰流居合術 | 8 |
| 22. 柳生新陰流兵法 | 8 |

III 流派紹介 (あいうえお順)

| | |
|--------------------------|----|
| 1. 合 気 道 | 9 |
| 2. 小笠原流弓馬術礼法・墓目の儀及び、百々手式 | 9 |
| 3. 小笠原流弓馬術礼法・騎射の型 | 9 |
| 4. 尾張貫流槍術・柳生新陰流兵法 | 10 |
| 5. 鹿島新當流剣術 | 10 |
| 6. 鞍 馬 流 剣 術 | 11 |
| 7. 示現流兵法剣術 | 11 |
| 8. 滝川一流柔術 | 12 |
| 9. 新陰流居合術 | 12 |
| 10. 心形刀流剣術 | 13 |
| 11. 神道夢想流杖術 | 13 |
| 12. 神道夢想流杖道 | 14 |
| 13. 神道無念流剣術 | 14 |
| 14. 関口流抜刀術 | 15 |
| 15. 竹内流腰廻小具足 | 15 |
| 16. 立 身 流 | 16 |
| 17. 天真正伝香取神道流 | 16 |
| 18. 天神真楊流柔術 | 16 |
| 19. 天道流なぎなた | 17 |
| 20. 宝蔵院流高田派槍術 | 17 |
| 21. 無雙神傳英信流抜刀兵法 | 17 |
| 22. 柳生新陰流兵法 | 18 |
| 23. 柳生心眼流體術 | 19 |
| 24. 柳生制剛流抜刀 | 19 |
| 25. 琉球古武術 | 19 |
| IV 道場及び教場所在地一覧 | 21 |

祝　　辞

名古屋まつり協賛第58回「日本古武道大会」の開催、誠におめでとうございます。
本大会が盛大に開催されることを大変うれしく思います。

古武道は、平安末期から鎌倉、室町時代にかけて生まれて以来、歴史と伝統に支えられて今日までの長い間、その技と心が伝承されてきました。日々の鍛錬によって身体を鍛えるだけでなく、礼儀、礼節を重んじ、心身の修養を通じて人格の向上を図ることができる、大変意義のある伝統武道です。

日本古武道振興会ならびに関係の皆さまには、日ごろから伝統武道の保存・発展にご尽力いただき、深く敬意を表します。

さて本年5月に、元号が平成から令和となり、新しい時代がスタートしました。平成の時代を振り返ると、ナゴヤは、水族館や本丸御殿など今を彩る数々の名所が誕生するとともに、地下鉄・高速道路延伸や都心再開発も進み、名古屋港貿易黒字額は20年連続日本一と、我が国全体の経済を支える230万人の大都会へと飛躍を遂げました。

その一方、日本各地で地震や豪雨などの自然災害が発生し、多くの人々が苦しめられました。そのような中、日本人が古来より大切にしてきた「信義・礼節・友愛」といった精神のもと、お互いを思いやる心や助け合いの心により、多くの尊い命や貴重な財産が救われてきました。

「信義・礼節・友愛」といった日本古来の精神を培う土壤の醸成には、古武道の技と心の伝承が欠かせません。日本古来の精神と、それを裏打ちする古武道は、私たちの大切な財産であり、新しい令和の時代へ受け継いでいかなければならないと切に感じています。

本日は各流派の皆さまが、長い歳月の中で磨きあげられてきた、熱い演武を繰り広げられることを期待します。また市民の皆さまには、本大会を通じて、日本に古来より伝承してきた技と心を感じていただきたいと思います。

本大会のご成功と貴会の今後ますますのご発展ならびに本日お集まりの皆さまのご活躍とご健勝を祈念します。

令和元年10月20日

名古屋まつり協進会会長
名古屋市長 河村 たかし

ご挨拶

このたび、名古屋まつり協賛第58回熱田神宮奉納日本古武道大会が開催されますことは、日本の誇るべき古武道文化財の保存振興のため誠に喜ばしきかぎりであります。

今まで数百年の長きにわたり綿々と伝えられてきた古武道は、古人が戦場で生と死を賭けた戦いの中で習得した実戦武術であります。それが武士の誉れの信条であります仁、義、礼、智、信とともに様式美さえ醸成され、日本の誇るべき伝統文化財の一つとなつたものであります。そしてこの古武道は歌舞伎、演劇、映画、文学、美術などの日本文化に大きな貢献をしており日本語にまで影響を及ぼしております。まさに時空を超えた日本の表象文化と言えるものであります。

この古武道に魅力を感じた外国人も最近多くなり、各流派に多数入門し修行しております。

日本古武道振興会はこの貴重な文化資産である古武道の保存振興を目的として発足し、毎年各地で古武道大会を開催するとともに、さらに我が国における醇風美俗の維持啓発、青少年健全育成、体力増進などを掲げ活動し、今年は創立84周年を迎えております。

本日の大会は、日本古武道の保存、振興の見地から、真に有意義であり、それぞれ由緒ある流儀を承け継がれ、その道を極められた先生方によって演武されます。ご観覧の皆様におかれでは、古武道の素晴らしさを認めてくだされば誠に幸甚と存じます。

日本古武道振興会
会長 小笠原 清忠

ご挨拶

第58回「日本古武道大会」が、名古屋まつり協賛の行事として行われますことにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

ご承知のように、古武道は生命を懸けた戦いの中から相手を倒す必勝の技術を工夫して体得したことから始まりました。刀、槍、弓、杖、棒、体等を使用した武術にそれぞれ名人、達人が輩出されて、室町時代末期には各流派が誕生しました。その後、時代の変遷に伴い、徳川時代になると古武道は実戦的な技術の習練のみではなく、むしろ人間的な完成を目指す自己修養の道として、特に武士の表芸である欠かせない教養として尊重されるに至りました。古武道こそ武士が生み出した武家文化の精髄であると言えるものであります

剣を学ぶについて柳生兵庫助利巣は「三摩之位」という教えを残しております。則ち、祖師・先哲の正しい教えを、千鍛万錬の稽古を通し、工夫して自分の血肉とすることを表す、「習、稽古、工夫」であります。また、柳生石舟斎宗巣は柳生家憲の中で「昨日の我に今日は勝つべし」と、日々自分自身を向上させるように努力せよと訓示しております。

今日、ここに各流派の代表の方々が真剣に行います演武は、心身一如で行う我が国の伝統的な文化の結晶であります。我々は、この貴重な文化を風化させ喪失することなく次世代に正しく伝えていく責任があり、本日は、その責務を果たす絶好の機会であります。ご高覧の皆様にとりまして日本の伝統文化と古武道の関係を見出す機会となれば幸甚であります。

最後になりますが、今日の大会の盛況は名古屋市、並びに名古屋市緑政土木局の多大なるご後援とご尽力、そして各流派の先生方と古武道を暖かく支えて下さる皆様のご協力の賜物であると心から感謝申し上げます。

日本古武道振興会
副会長 愛知県支部長

柳生耕一巣信

プロ グ ラ ム

<熱田神宮神楽殿前広場> (10:40~11:40)

1. 小笠原流弓馬術礼法・幕目の儀及び 百々手式 (流祖) 小 笠 原 長 清

| | | |
|--------|--------|--------|
| 小笠原 清忠 | 小笠原 清基 | 今村 祝 |
| 今村 はつ代 | 村田 幸一 | 安藤 ひろ美 |
| 兼松 邦夫 | 兼松 正子 | 中島 幸子 |
| 福留 裕晃 | 和田 大地 | 伊藤 宏 |
| 須名 和夫 | 九里 孝義 | 武藤 都代美 |
| 稻垣 雅男 | 猪谷 崇明 | 長谷川 安成 |
| 山下 佐智子 | 長澤 潔子 | 中尾 淑子 |
| 林 貴子 | 菊池 建策 | 鈴木 五十鈴 |
| 安藤 十九二 | 水野 稔 | 山田 彦一 |
| 梅田 克一 | 稻川 幸三 | 柏木 功 |
| 星野 阜司 | 関根 崇 | 峯 茂康 |
| 鈴木 浩一 | 八田 英明 | 太田 加壽子 |
| 宮崎 里美 | 小川 奈美 | 林 厚成 |
| 佐藤 昌二 | 西 能成 | 森 優史 |
| 武山 大貴 | 浅野 邦仁 | 竹内 初重 |
| 宮下 克美 | 棚橋 美喜子 | 山本 誠治 |
| 伊賀 直樹 | | |

<熱田神宮文化殿講堂> (10:30~16:10)

1. 柳生制剛流抜刀 (流祖) 水早長佐衛門信正

福 安 實 男 太 田 俊 介 ジョシュア ライバー
玉 越 薫 高 木 要 馬

2. 合 気 道 (開祖) 植 茲 盛 平

滝 本 清 三 中 山 栄 一 川 地 利 明
堀 江 彰 稲 垣 修 井 上 博 行
菱 田 綾 真 野 明 日 人 佐 藤 大 輔
山 口 伸 吾 佐 ャ 木 剛

3. 天神真楊流柔術 (流祖) 磯又右衛門柳闇斎源正足

坂 本 忠 彦 渡 邊 順 也 岩 倉 淳
八 木 宏 之 小 澤 修 一

4. 示現流兵法剣術 (流祖) 東郷藤兵衛肥前守重位

東 郷 重 賢 白 坂 耕 一 有 村 博 康
高 橋 幸 司 藤 村 亨 下 津 浩 一
アレキサンダーブラッドショー 築 地 克 秀

5. 鞍 馬 流 劍 術 (流祖) 大野 将監

松 尾 和 夫 吉 田 穂 覚 松 井 康 一

6. 天道流なぎなた (流祖) 斎藤判官伝鬼房勝秀

渥 美 メ 代 岡 本 教 子 加 藤 寛 子
滝 口 真 澄 武 山 敦 子 宮 田 尚 美
横 山 恵 美 子 若 原 貞 子

7. 天真正伝香取神道流 (流祖) 飯篠長威斎家直
飯 篠 宏 太 京 増 重 利 荒 野 祥 司
成 毛 弘 櫻 井 俊 也

8. 鹿島新當流剣術 (流祖) 国摩眞人及び塚原卜伝
吉 川 常 隆 内 田 嘉 昭 橋 本 大
横 尾 廣 美 今 井 淳 也 小 松 崎 政 史

9. 尾張貢流槍術 (流祖) 津田権之丞信之
柳生新陰流兵法 (流祖) 柳生兵庫助利巖
下 村 幸 裕 神 戸 信 夫 下 村 直 樹
森 浩 紀 Alex krupp 毛 利 圭 介
山 内 一 統 新 垣 ダニエル 木 村 凌 弥
神 原 会 弥 宇治川 佳子

10. 神道夢想流杖術及併伝武術 (流祖) 夢想権之助勝吉
三 澤 芳 郎 松 宮 政 重 坂 下 國 晴
石 丸 聖 也 片 田 征 治 古 川 美 好
松 木 平 浩 司 松 宮 百 合 稲 生 恭 子
石 川 桂 子 木 村 恵 子 大 山 美 砂
戸 谷 高 戸 谷 里 美

11. 無雙神傳英信流抜刀兵法 (流祖) 林崎甚助重信
森 本 邦 夫 三 崎 俊 広 林 大 介
堂 元 慎 介

12. 立 身 流 (流祖) 立 身 三 京
加 藤 紘

13. 澄川一流柔術 (流祖) 首藤藏之進滿時

森 本 邦 夫 三 崎 俊 広 林 大 介
伊 神 雄 一

14. 琉球古武術

渡 迈 俊 明 橫 田 秀 穂 蒲 生 義 隆
道 正 泰 弘 吉 田 実 宏 山 口 量 也
矢 野 香 矢 野 愛 結

15. 柳生心眼流體術 (流祖) 荒木又右衛門吉村

梶 塚 靖 司 寺 久 保 敦 也 甲 斐 正
谷 野 文 弥 吉 岡 一 紀

16. 宝蔵院流高田派槍術 (流祖) 宝蔵院覺禪房法印胤栄

柏 井 隆 船 谷 哲 司 西 堀 清 作
千 田 拓 治 宇 仁 田 慧 植 木 昭 登
栗 飯 原 篤 史

17. 神道夢想流杖道 (流祖) 夢想權之助勝吉

濱 地 光 男 富 田 隆 鈴 木 一 由
鈴 木 裕 司 上 川 純 佐 野 師 之 彥
吉 田 真 吾 澤 山 幸 宮 島 孝 雅
牧 野 恭 実 鈴 木 久 之 平 野 邊 真
渡 邊 隆 尾 閔 俊 輔 田 邊 裕
福 岡 啓 太 松 田 克 也 名 倉 隆
清 水 哲 也 伊 藤 鳩 馬 近 藤 大
安 瀬 海 渡 河 村 守 昭 谷 川 岳 智

18. 神道無念流剣術 (流祖) 福井兵右衛門

小 川 武 萩 崎 昭 土 屋 正 則
浅 野 史 明 山 谷 怜 子 神 明 新 太 郎

19. 関口流抜刀術 (流祖) 関口八郎左衛門源實親
德井哲夫 坂下忠國 山際英人
市岡徹也 稲垣幸男 大島佑斗

20. 心形刀流剣術 (流祖) 伊庭是水軒秀明
小林強 加藤尚大 伊東大輔
小崎真也 野仲治行

21. 新陰流居合術 (流祖) 柳生但馬守平宗嚴
鹿嶋清治 木下登 井上好美
水野孝男 橋江井和之 宮田壯一郎
和田英之 園田信行

22. 柳生新陰流兵法 (流祖) 上泉伊勢守藤原信綱
柳生耕一嚴信 高山潤一 鈴木泰充
小川友之 柴田幸芳 伊佐治誠
鈴木保幸 細井和子